

(H31 様式 1)

平成 31 年 4 月 15 日

教 育 長 様

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">研究コース</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">グループ研究Bコース</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">校園コード（代表者校園の市費コード）</td></tr> <tr><td style="padding: 2px; text-align: center;">732667</td></tr> </table>	研究コース	グループ研究Bコース	校園コード（代表者校園の市費コード）	732667	<p>代表者 校園名 : 大阪市立我孫子南中学校</p> <p>校園長名 : 井戸本 崇志</p> <p>電 話 : 6698-6310 F A X : 6698-8341</p> <p>事務職員名 : 篠原 康之</p> <p>申請者 校園名 : 大阪市立東我孫子中学校</p> <p>職名・名前 : 立石 雄一</p> <p>電 話 : 6698-0001 F A X : 6698-0541</p>	校印
研究コース						
グループ研究Bコース						
校園コード（代表者校園の市費コード）						
732667						

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Bコース	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	「英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」 —5領域のコミュニケーション能力を総合的に養う—			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>①即興性のある英会話トレーニング。 ②ICT機器を有効に活用した授業研究を推進する。 ③4技能の「話すこと」を「即興性のあるやりとり」と「発表」に分け4技能5領域の視点でコミュニケーション能力を育成する。 ④C-NETとのTTで①、③で身に着けた能力を伸ばす。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>平成28年度の全市研究会で、英語科教員にとったアンケートから、「英語で行う授業方法」、「リーディング指導法」、「C-NETとのT-T指導法」のさらなる授業方法を求める声が多く、多岐にわたった悩みが明らかになった。平成29年度の研究発表会では全体会に加えて分科会を実施し、指導方法や教材の共有化を図った。平成30年度は、小学校での英語の教科が始まることで、これからの中学校での英語教育を考え、授業のあり方を研究した。また、全市研究会ではデジタルテキスト等ICT機器を有効に使い、オールイングリッシュで公開授業を行いさらに研究が深まった。本年度はICT機器を有効に活用する研究をさらにすすめることと共に、C-NETとのTT等で4技能の「話すこと」を「即興性のあるやりとり」と「発表」に分け、4技能5領域の視点でコミュニケーション能力を育成することに重点を置き研鑽を積みたいと考える。</p>			

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。				
5	活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5月上旬：研究グループによる第1回研究協議 ○ 6月～2月：研究協議会（年に5回予定） ○ 7月～11月：大阪市内外英語研究会への参加 (全英連大会「三重」、大都市大会「京都」、近畿研究大会「和歌山」等) ○ 9月：大阪市長杯英語暗唱大会実施 ○ 10月：大阪市中学校教育研究会 全市一斉研究発表会で発表 ○ 11月：English Festival実施 ○ 12月：研究成果アンケート実施 ○ 2月：研究発表会実施・アンケート発表 				
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全市一斉研究発表会の参加者を増加させる。 平成30年度320名⇒平成31年度350名を目標とする。 (本市英語科教員 約500名) ○大阪市、英検3級程度以上の英語力生徒の割合を増加させる。 平成30年度51%⇒平成31年度55%を目標とする。 ○大阪市長杯英語暗唱大会への参加校数を増加させる。 平成30年度20校⇒平成31年度25校を目標とする。 ○English Festivalへの参加校数を増加させる。 平成30年度10校⇒平成31年度15校を目標とする。 ○全市一斉研究発表会のアンケートで、肯定的回答を以下の通り目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「即興的なやりとりを授業内で取り入れている」40%目標 ・「NHK LEADをはじめ、デジタル教材等ICT機器を授業で活用している」50%目標 ・「自分の考えや気持ちを英語で伝える機会がある」50%目標 				
8	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（2020年2月25日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>日程</td> <td>2020 年 2 月 15 日</td> <td>場所</td> <td>未定</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	2020 年 2 月 15 日	場所	未定
日程	2020 年 2 月 15 日	場所	未定			
9	代表校園長のコメント	英検3級程度以上の英語力生徒の割合が平成29年度で50%を超え、30年度も約51%と増加した。これは、大阪市内の英語科教員の日々の研鑽の結果、指導技術の向上したことによるものと考える。今後も大阪市中学校教育研究会英語部の取り組みを通して、より多くの研究会を設け、充実させたい。				